

報告者：山口（チェリーハウス）

令和4年度 第3回 台東区障害者地域自立支援協議会(くらしの部会)報告

1 開催日

毎月第3水曜日 10:30～12:00

リモート開催 10/19、11/22(勉強会)、12/14 (3回)

2 検討した内容

(1) 災害時の情報伝達についての検討

今年度後半の検討テーマとして「災害時の情報伝達について」検討を始めた。昨年度からの継続検討として、二次避難所の充実に向けての話し合いを進めてきた。その中でサービス(制度)の狭間にいる障害当事者への災害情報の伝達方法について課題があるのではないかとの意見があり、防災・災害情報を伝える手段や支援の行き届いていない当事者への情報発信について検討をすることとなった。

○情報伝達の課題

- ・障害福祉サービスを使っていない方、情報媒体(ネット)が使えない方、地域で孤立している方がいる現状でどのようにして防災・災害情報を伝えていくのか。
- ・災害情報のどの部分を重点的に伝えていくのか(災害準備段階・発災後)。
- ・台東区でも防災アプリや紙媒体での情報提供は行っている。「たいとう区安全・安心ハンドブック」より重要とする項目を抜粋し、障害当事者が分かりやすい内容にし、ハンドブックへの差し込みをしてはどうか。
などの意見が出される。

○現段階での方向性(案)

- ・「たいとう区安全・安心ハンドブック」を活用し、分かりやすく災害への備え、災害時の行動についての注意喚起をしていく。(1枚の紙にまとめて配布)
- ・区役所、保健所、各事業所、町会の回覧板などで配布していく。

(2) くらしの部会研修会について

令和4年11月22日開催

講師：ひころの里コンソーシアム 所長 鈴木清美氏

テーマ：東日本大震災南三陸11年「障害者はいませんか？」

発災時から復興までの体験談についてお話をいただいた。

○参加者からの感想（抜粋）

- ・津波体験の話は壮絶なものであった。後世に伝える活動をされているのは頭が下がる思い。
- ・日頃からの地域での付き合いがいざという時の助けになると感じた。
- ・日頃の備えも年月とともに意識が薄れていくとの話があった。防災備品を揃えて終わりにしてはいけないと思った。
- ・地震、津波の話でここまでリアルな話は初めて聞いた。
- ・生々しく、本当に恐ろしい体験をしたことが良く分かった。
- ・学校への避難の際に、学校側からの配慮で施設ごとに教室を割り当てられたとの事。東京で同じように配慮してくれる学校があるのだろうか。
- ・地域の輪が東京でどこまで出来るのだろうか。
- ・ここまでなら大丈夫という過信は禁物であると感じた。
- ・地域でのつながりが大事だと再認識した。
- ・当施設も福祉避難所になっているが、お話のような対応が出来るのかもっと色々決めていかなければならないと考えさせられた。
- ・災害の対応に追われて、行政の職員は使命感から抱え込み過ぎて、落ち着いた後体調を崩されたとの話があった。被災者のサポートだけではなく、サポートする人たちのケアもしていかなければいけないと思った。

○講師の鈴木氏から災害備蓄品リストについてのご意見

災害備蓄品リスト、災害備蓄品の保管について被災の教訓をもとにアドバイスをいただいた（別紙参照）。

3 今後のスケジュール

- ・情報伝達についての方法や内容の詳細について再検討
- ・来年度に向けてのテーマ検討
- ・来年度のリーダー、サブリーダー選出